

# 平成22年度審判技術講習会

主 催 杉並区軟式野球連盟  
後 援 杉並区教育委員会

日 時 平成22年2月28日(日) 午前8時～午後5時

場 所 佼成学園総合運動場(雨天時、佼成学園体育館、午前9時～)

技術指導責任者 講 師	鋤全日本軟式野球連盟技術指導員	遠 藤 靖 彦
	鋤全日本軟式野球連盟公認一級審判員	椎 名 勝 敏
	〃	熊 崎 和 仁
	〃	細 金 作 治
	〃	森 中 崇 雄
	杉並区軟式野球連盟技術指導員	加 藤 博 二
	〃	伊 藤 健 二

実技協力チーム 杉並ジェッツ・東村山パワーズ

8:00	開 講 式	12:40	投 手 に つ い て
8:15	球審の基本的、一般的事項	13:10	特殊なプレイについて
8:45	準備体操、基本練習	13:30	ノックによる位置取り(内野)
9:45	休 憩	14:30	休 憩
10:00	塁審の基本的事項	14:45	3人制連帯練習(外野、場面設定)
10:30	球審と塁審の基本練習	16:00	閉 講 式
11:15	球審と塁審の基本練習	16:15	グ ラ ン ド 整 備
12:00	昼 食	16:30	解 散

# 平成22年度杉並区審判技術講習会

## 参加人数

団体名	班名	人数
杉並区軟式野球連盟		15名
杉並区中学生軟式野球協会	1班	28名
杉並区学童軟式野球連盟	2班	20名
杉並区スポーツ少年団	3班	26名
杉並区立小PTA野球協議会	2班	8名
杉並区立小PTA野球第一分区	4班	28名
杉並ジェット野球部選手		27名
杉並ジェット野球部監督、コーチ		2名
杉並ジェット野球部保護者会		5名
東村山パワーズ野球部選手		29名
東村山パワーズ野球部監督		1名
東村山パワーズ審判員	1班	5名
	計	194名

# 1. 球審の構え方

On the rubber - Get set - Call the pitch - Relax

## スロットスタンス:

### 1) 足

捕手の足のかかと/球審の足のつま先/かかと/つま先  
(Heel/Toe/Heel/Toe) (次ページの図)

かかとからつま先まで地面につける。

両足のスタンスは最低肩幅(ほとんどの場合肩幅以上)。

両足に均等に体重をかける。

スロット足を先に決め、後ろ足は45度まで開く。

(両足のスタンスは自分の一番楽な位置がよい)

### 2) 肩

投手板に正対する。

地面と平行に。

### 3) あご

地面と平行に。

捕手の頭頂部の高さに合わせる(次ページの図)。

### 4) 体

や前方に傾ける。

頭の高さを決めるのにしたがって腰の位置も決まる。

### 5) 腕と手の位置(①、②のどちらでもよい)

①スロット方向の腕は90度に曲げ、ベルトのあたりに止める。もう一方の腕はひざの上部あたりに軽く添える。

②両前腕を足の内部に入れ、太ももあたりに持つてくる。手は自然に下げるか軽く握る。

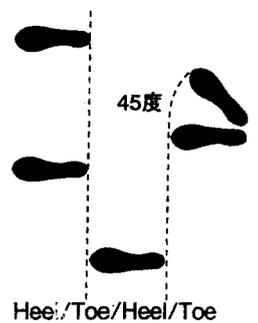
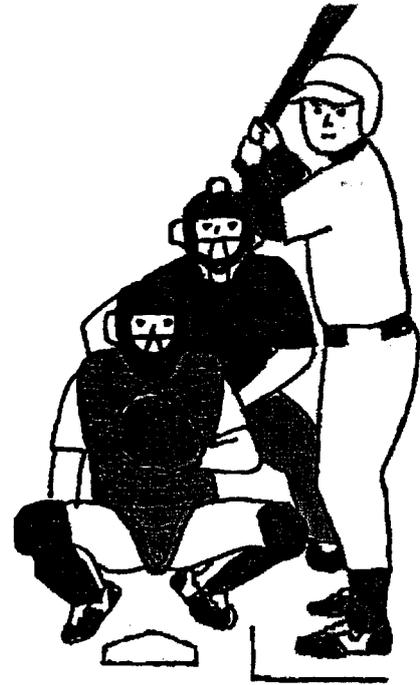
## 球審の構えの3大ポイント:

①スロット足のつま先が投手板方向に向いているか。

②ホームプレートが全部見えているか。

(頭の高さ、位置)

③構えた姿勢が自分にとって快適か。



## 10. 塁審の構え方

塁審は、

1. 一球ごとにセットポジションで構える。  
\*ただし走者がいないときは、スタンディング・セットポジション(立ったままの姿勢で、ひざを少し曲げて構える)でもよい。
2. プレイの判定のときにはセットポジションで構える。

セットポジションの構え方：

1. ひざを軽く曲げる。腰を曲げない。
2. 両手をひざまたは太ももの上に置く(ハンズ・オン・ニーズ)。両脚の内側に置かない。
3. 頭を上げる。頭を落とさない。
4. ひじをまっすぐに。
5. 肩の力を抜いて。リラックスして。
6. 重心は前に置く。機敏に動けるように。

判定の3大ポイント：

- ①判定するときは止まって両ひざに軽く手を置きプレイを見極める。
- ②距離を一步近づくより、一步動いて良い角度をとるように心がける。
- ③いつでも次にどのようなプレイが起きるかを想像しながら行動する。



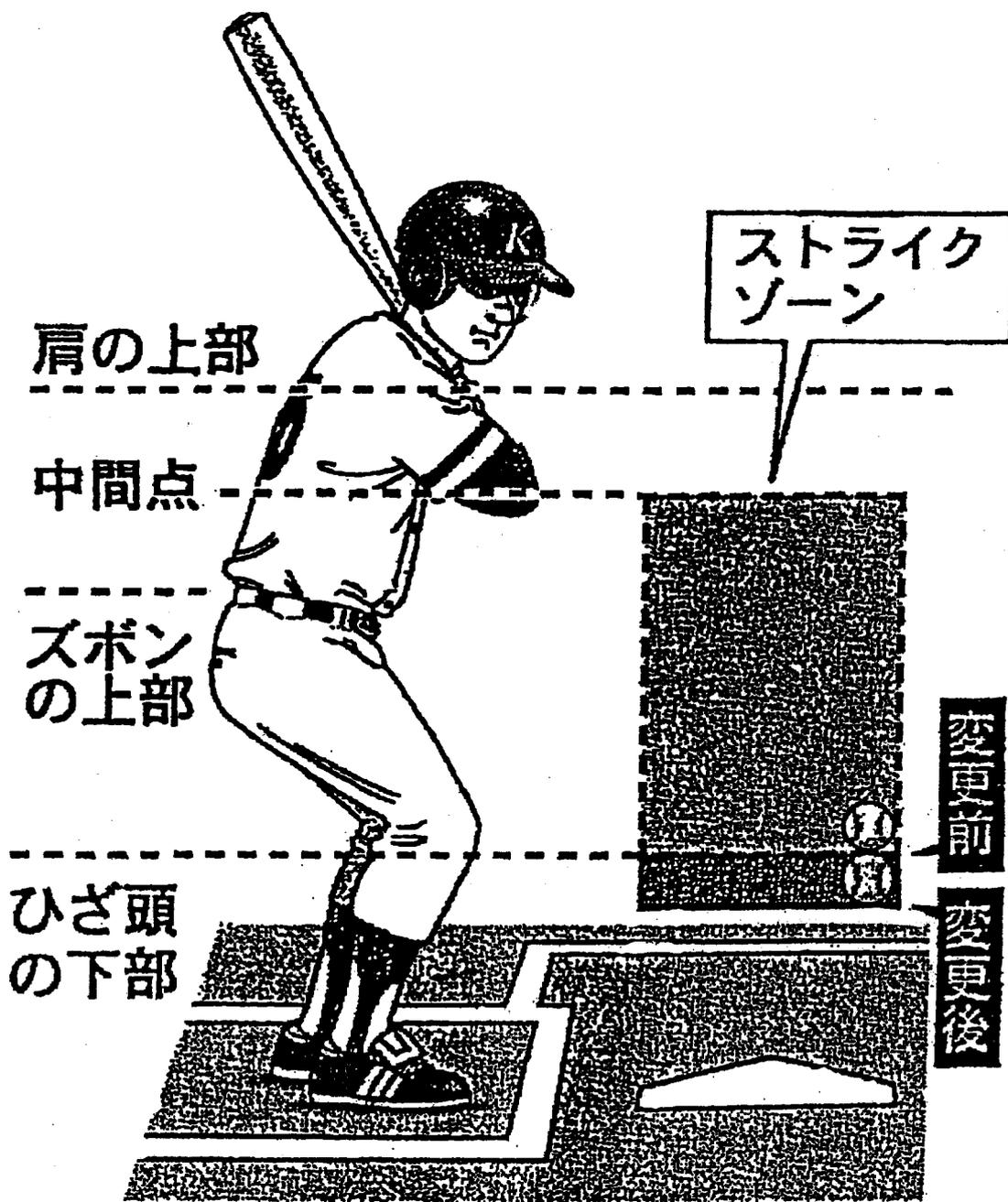
正しい構え方

- ・視野を広く。
- ・プレイに正対する。



間違った構え方

# ストライクゾーンの変更



イラスト・松下佳正

# 講 習 会 資 料

科 目		着	眼	
球審の基本的事項	1. 位置と姿勢	捕手と打者との間からストライクゾーンの全体が見える位置。 楽な姿勢で一球ごとに構え直す。 目の高さはストライクゾーンの上限か、やや上におく。		
	2. 判定について	ストライクゾーンの確実な把握。打者の身長によって高低は変化する。 予想や埋め合わせはしない。		
	3. ジェスチャーとコール	節度をもってハッキリと。声は大きく。 コールのタイミングは早すぎないこと。(捕球を見る) カウントをコール。		
球審の一般的な事項	1. 試合の準備	球場に早めに入場して施設その他の点検を行なう。 特別規則あるいは相互の打ち合わせ、サインなどの確認。		
	2. 用具の取扱い	軽快に使用するために点検と調整。 打球が打たれたとき、あるいはプレイが行なわれているときはマスクをはずす。(左手でははずす)		
	3. 投球動作について	イ. サインの見方	投手が投手板に正しくついているか、どうかの確認。	
		ロ. ワインドアップポジション	投手板と両足の置き方。(軸足と自由な足の制限) インモーションについて。 送球の制限。(アマ内規11)	
		ハ. セットポジション	投手板と両足の置き方。 ストレッチについて。 動作の静止。(許されるのは首だけ)	
		ニ. 反則投球	走者のいないときに投手板につかないで投げたものなど。	
		ホ. ボーク (必ず走者がいる場合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 投球の中断</li> <li>b. 一塁への送球の中止</li> <li>c. 自由な足の踏み出し</li> <li>d. 走者のいない塁への送球、送球のまね</li> <li>e. 反則投球</li> <li>f. 打者に正対しないでの投球</li> <li>g. 投手板に触れないで投球に関連する動作をしたとき</li> <li>h. 不必要な遅延行為</li> <li>i. ボールを持たないでの行為 (かくし球)</li> <li>j. 投手板上で一方の手を離す</li> <li>k. 投手板上での落球</li> <li>l. 捕手席外への投球 (故意四球)</li> <li>m. セットポジションで静止しないとき</li> </ul>	
	4. アンパイアリングの基本事項	イ. 判定範囲	一塁、三塁のベースまでは球審。 (ファウルフライは別)	
		ロ. フェア、ファウルボールのジェスチャー	ライン付近のフェアに対しては、人差し指を出してフェア地域に向かってジェスチャーで示す。(ノーボイス)。 ファウルボールは大きな声とジェスチャーで。	
		ハ. 打球について	ライン際の内野ゴロ、フライ、ライナーは前に出て見る。	
5. 本塁周辺のプレイ	イ. プレイに際しての準備動作	あわてない。 邪魔になるマスクやバットは速やかに取り除く。		
	ロ. フォースプレイとタッグプレイ	判定する位置へすばやく入る。 外野からの送球に対する位置のとり方。		
	ハ. ホームスチール	先ずストライク、ボールをコールし、次に走者の判定をする。その後、公式記録員に投球の判定を示す。		

科 目		着	眼
球 審 の 一 般 的 事 項	6. 特殊なプレイ	イ. ボーク	プレイが続けられた場合は、結果によって成り行きになるか、ボークを適用するべきかを判断する。投球はコールのみ、送球は片手でポイントしコールする。
		ロ. タイム	その時機の是非を判断して、タイムと大きくはっきり宣告し中に入る。
		ハ. 打撃妨害	左手で捕手を指しプレイを見守る。プレイがなかった場合は、タイムを宣告し改めて「打撃妨害」を宣告後、打者を一塁へ進める。その後記録席へ向って左手甲を右手で叩き妨害があったことを知らせる。プレイが続行された場合は、プレイが一段落後タイムをコールし「打撃妨害」を宣告し打者を一塁へ進める。その後記録席に向って左手甲を右手で叩き妨害があったことを知らせる。監督の選択権に注意。
		ニ. 送球動作の妨害	捕手が走者を刺そうとして送球したもの。 A. 打者の場合 B. 球審の場合
		ホ. 挟撃プレイ (ランダウンプレイ)	深追いは禁物だがタッグプレイのときは思いきって近づく。 ラインアウトに気をとられてタッグの動作を見落とさないように。(ノータッグに注意)
		ヘ. 得点の確認	第3アウトのタッグアウトに注意(タッグが早かったか、遅かったか) タイムプレイ。 アピールアウトの置き換えに注意。
		ト. 故意落球	手がグラブに打球を触れさせ故意に落としたフェアのフライ、ライナー。 球審は前に出て、バッターアウトの宣告を行ない、ボールデッドの状態にするためタイムを宣告する。
		チ. インフィールド フライ	右手人差し指で打球を指して、インフィールドフライと宣告した後、バッターアウトとコールする。塁審が宣告した場合は、球審は塁審の判定に合わせて必ず追従判定を行う。規則適用の状況が生じたときは、右手を左胸に当てて、審判員相互のシグナルを交換する。
塁 審 の 基 本 的 事 項	1. 位置	選手の邪魔にならないで判定に最も見易い位置をとる。	
	2. 走者のいない場合	イ. 立つ位置	必携参照。一、三塁はラインの外に立つ。
		ロ. 姿勢	手は軽く膝の上に添えて、一球毎に構える。ボールから目を離さない。
		ハ. 判定	先ず送球の予想されるコースに対して直角の位置をとる。 フォースプレイは走者の足と野手の捕球が見える位置。 打者の足、野手の足を見て捕球を音で確認する。両手を腿のあたりに添えて、プレイを見る。飛球は停止して確認。 ジャッジは走りながら行わない。
		ニ. 宣告	コールは大きく、引き締まったもの。 判定の宣告は早すぎないこと、宣告後もプレイからすぐ目を離さない。 送球がそれで高いか横にそれたときは、思いきってプレイに近づく。

科 目		着	眼
塁 審 の 基 本 的 事 項		ホ. フェア、ファウルボールのジェスチャー	フェアは人差し指を出してフェア地域の方向にポイントする。(ノーボイス) ファウルボールはラインをまたいだままか、外側に向かって。
		ヘ. 外野への打球に対する動き	メカニクスハンドブック参照。 ファウルライン近くの打球はラインをまたいで見通す。
	3. 塁上に走者のある場合	イ. 位 置	メカニクスハンドブック参照。
		ロ. 牽制球とタッグプレイを見る位置	送球に対して素早く移動し、近づいて見る。(野手の邪魔にならないように) タッグのよく見える位置をとる。(野手のかげにならないように)
		ハ. フォースプレイとタッグプレイ	判定する位置へすばやく入る。 コールは早すぎないこと。確捕の状態を見極めてから宣告する。
		ニ. ライン上の打球	一、三塁ベース以遠は塁審が判定する。
	4. 連 け い 動 作	イ. 外野に打球が打たれた時	イージーフライは追わない。トラブルボールは徹底して追うこと。 メカニクスハンドブックの図解に習熟して、他の塁審の動きに注意し、塁に穴があいたら必ず誰かが埋める。
	5. 特殊なプレイ	イ. タッグアップ	塁から離れ、野手と走者を同一視野に入れる。
		ロ. アピールプレイ	アピールの答は、セーフかアウトかのジェスチャーで。
		ハ. 挟撃プレイ	タッグを避けようとして走路外に出たときはラインアウト。 ボールを持っていない方でのタッグに注意。
ニ. タ イ ム		タイムの要求があってもその時機の是非を判断してから行う。 一人が宣告したら他の審判員も直ちに同調する。	
ホ. ボ ー ク		投球、送球ともに右手人差し指で投手を指して、ボークとコールする。結果によって成り行きかどうかを判断して処置をする。	
ヘ. 守 備 妨 害		打球を処理している野手の守備が優先。	
ト. オブストラクション(走塁妨害)		球を持たない野手と走者がぶつかったとき。 a項かb項かを判断。 事後の処理を的確に。	
チ. 追い越しアウト		追い越した瞬間、その走者を指してアウトを宣告し、速やかに取り除く。	
試 合 の 運 行 に つ い て	1. スピードアップ	初回及び投手交代時の準備投球数は8球以内、以後は4球まで。 攻守交代は駆け足を実行。その他連盟取り決め事項参照。	
	2. 抗議の処理法	抗議権のある者かどうかを確認する。必要な事だけを答える。 丁寧に応答はしても引き時を誤らない。 プレイについて手足で絶対に真似をしない。	
	3. 審判員相互の協議	協議の招集があれば、自分の意見は率直に。	
	4. 試合前の相互打合せ	連係動作の打合せや、必要なサインを取り決めておく。	
	5. 暗黒時の処理	点灯しない夕暮れの試合は、打ち切るタイミングを失すると大きなトラブルの原因となる。もう少しできるかなと思うときが打ち切りどき。 本部と必ず打ち合せて最終決定を下す。	

## 三人制審判の取り決め事項

### 1. ポジショニング

- ①無走者・走者三塁のとき……一塁塁審、三塁塁審とも一・三塁手の約3～4メートル後方ファウルラインの外側に位置する。
- ②走者一塁、一・二塁、一・三塁、満塁（フォースの状態）のとき……一塁塁審は一塁後方ファウルラインの外側、三塁塁審は二・三塁間内野内に位置する。
- ③走者二塁、二・三塁のとき……一塁塁審は一・二塁間内野内、三塁塁審は三塁後方ファウルラインの外側に位置する。

### 2. 外野への打球の責任範囲

#### A. 両方の塁審がファウルラインの外側に位置した場合

- ①中堅手より向かって右側の打球……一塁塁審が打球の責任を持ち、打球を追った場合、三塁塁審は内野内に移動する。
- ②中堅手より向かって左側の打球……三塁塁審が打球の責任を持ち、打球を追った場合、一塁塁審は内野内に移動（ピボットターン）する。

#### B. いずれかの塁審が内野内に位置した場合

##### B-1 一塁塁審が内野内に位置した場合

- ①右翼手より向かって右側の打球……球審が打球の責任を持つ。
- ②右翼手から中堅手までの打球……一塁塁審が打球の責任を持ち、打球を追った場合、三塁塁審は内野内に移動して、二人制の動きになる。
- ③中堅手より向かって左側の打球……三塁塁審が

打球の責任を持つ。

##### B-2 三塁塁審が内野内に位置した場合

- ①中堅手より向かって右側の打球……一塁塁審が打球の責任を持つ。
- ②中堅手から左翼手までの打球……三塁塁審が打球の責任を持ち、打球を追った場合、一塁塁審は内野内に移動して、二人制の動きになる。
- ③左翼手より向かって左側の打球……球審が打球の責任を持つ。

### 3. ハーフスイングの判定

- ①フォースの状態にあるとき、左打者のハーフスイングの判定は、二・三塁間に位置している三塁審が行なう。
- ②走者が二塁および二・三塁のときの右打者のハーフスイングの判定は、一・二塁間に位置している一塁審が行なう。

### 4. トラブルボール

次のトラブルボールの場合、審判はいい角度をとりながらできるだけ近づいて判定する。

- ①右翼線または左翼線寄りの打球。
- ②外野手が前進して地面すれすれで捕る打球。
- ③外野手が背走するフェンス際の打球。
- ④野手が集まる打球。

## 四人制審判の取り決め事項

### 1. ポジショニング

- ①無走者・走者三塁のとき……二塁塁審は、二塁ベースの後方に位置する。
- ②走者一塁、二塁、一・二塁、一・三塁、二・三塁、満塁のとき……二塁塁審は、一・二塁間または二・三塁間の内側に位置する(内野手が前進守備の場合は外側に位置する)。
- ③一塁塁審、三塁塁審はいずれの場合もファウルラインの外側に立つ。

### 2. 外野への打球の責任範囲

外野への打球を追う審判は、角度をとりながら落下点に近づき、必ず止まって判定する。

#### A. 二塁塁審が外側に位置した場合

- ①左翼手より向かって左側の打球……………三塁塁審。
- ②左翼手正面の前後から右翼手正面の前後までの打球……………二塁塁審。
- ③右翼手から向かって右側の打球……………一塁塁審。

#### B. 二塁塁審が内側に位置した場合……………

外野への打球は追わない。

- ①中堅手より向かって左側の打球……………三塁塁審。
- ②中堅手正面の前後より向かって右側の打球……………一塁塁審。

- C. 外野への打球を追った塁審は打球を判定した後その場に留まり、担当していた塁は他の審判に任せる。カバーに行なった審判は、その塁の審判が戻るまで、その塁を離れてはいけない。

### 3. 球審の動き

- ①無走者、走者一塁の場合は一塁または三塁をカバーする。
- ②走者が二塁または三塁のスコアリングポジションにいるときは本塁に留まる。

### 4. トラブルボール

次のトラブルボールの場合、審判はいい角度をとりながらできるだけ近づいて判定する。

- ①右翼線または左翼線寄りの打球。
- ②外野手が前進して地面すれすれで捕る打球。
- ③外野手が背走するフェンス際の打球。
- ④野手が集まる打球。

## 競技者のマナーについて

特に、正しい野球をするためのマナーとして、アマ規則部会・委員会では話題になり以後、各団体とも注意してゆく事柄を列挙した。

1. マナーとスピードブレップが良識を持つ野球人の義務。要するに社会の良識を持った社会人が行うので、社会人と呼ぶことを認識して欲しい。
2. 投手の投球間隔の短縮(ボークとまで行かない不必要な無駄な行動)
3. 捕手が捕球したあと、ストライクに見せかけようとしてミットを動かす行為。
4. 捕手が捕球したあと、あたかもストライクと言わんばかりにミットを残す行為。
5. 捕手が低い姿勢でも捕手席から片足を出してボールを投げさせる振りをしてストライクを投げさせる行為。
6. 打者のヒジ当てを利用してのデッドボール。
7. 打者がインコースの投球を避ける動きをしながら当たりに行く行為。
8. プレイ中にベンチをみだりに出ない。
9. 声援とヤジの違い。